

【評価実施概要】

事業所番号	172500241		
法人名	有限会社 スローライフ		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	余市町美園町199番地 (電話) 0135-22-7727		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年8月13日

【情報提供票より】(平成20年 7月 3日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	9人, 非常勤 1人, 常勤換算0.51 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月 30日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1	要介護2			
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林病院 わたなべ内科医院 荒木歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは余市町の郊外に在り、住宅街とブドウ園が隣接して緑に囲まれた静かな環境の中にある。ホーム運営者は、介護の質を高めるために外部研修に積極的に参加し、毎月独自の勉強会も重ねている。運営会議には区長・民生委員・認知症の会など幅広い分野の方に参加してもらい、ホームの改善に役立てている。介護原則は自分のできることをしてもらい、残存能力の維持に努める支援をしている。入浴は希望に応じて毎日や時間帯にも応じている。入居者の全員が生き生きして、近所の顔みしりの方が遊びに来ているのかと勘違いするほどの会話と趣味に励んでいる。スタッフは明るく優しく対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、自己評価の意義を勉強会を通して理解を深めていくことあったが、様々な分野の方の意見を取り入れ、外部研修会へ積極的参加と毎月の勉強会で理解を深めて評価に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の民生委員・区長・認知症の会などの委員からの意見を取り入れ、業務改善に努めている。更に外部研修にも積極的に参加と毎月の学習会で理解を深めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長・民生委員・認知症の会などの委員にホームの業務結果等のデータも提出して多くの意見を聴き、積極的な業務改善に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	来所するたびに日常生活状況を説明し、遠方の方には元気な様子を手紙と写真で送っている。運営推進会議へも参加を呼びかけるなどして、積極的な意見を求めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の踊り・民謡の先生がボランティアとして来てもらってホーム活動の活性化に役立っている。近くの保育園の運動会へ参加させてもらい交流をはかっている。また、地域の避難訓練にも参加させてもらい、地域との連携を進めている。

評価結果(概要)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を具現化するため、運営委員会や毎月の研究会で話し合っって具体化を目指している。		ホーム独自の理念づくりには、なお、身近な近隣地域とのかかわりを職員相互が具体的に話し合いつくり出すよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域住民との付き合いも深く、小さな事から取り入れ、実践に結び付けるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区会長・民生委員に運営委員になってもらい、自治活動、地域行事に参加している。お祭り前の地域の草刈りにも参加している。地域の方と近所付き合いをしている方から、民謡や踊りを教えに来てもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	民生委員・区会長・認知症の会の方たちの意見を取り入れ、ミーティング・毎月開いている勉強会で具体化に取り組みと研修会にも積極的に参加し理解を高めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月毎開かれている運営会議には、事前に議題と検討課題を送り、当日データ等の資料を提出し、多くの意見をもらい、施設の改善・サービスの質の向上に努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の担当者とは常時連絡を取り、情報を交換しながらサービスの向上に努めている。ホームの行事を区の広報に載せてもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームの生活状況を手紙にして知らせ、緊急時には電話連絡で対応している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営委員会の案内を出して参加を呼びかけたり、文書による意見を求めながら、不満・苦情・要望を引き出す努力を重ねている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>4年間で退職者が1名で、職員が定着しているので利用者も安心し穏やかである。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数に応じ、外部研修に積極的に参加させ、また、内部研究の毎月勉強会を重ね、ケアの質の向上に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他市町村とのグループホームと連携を取り、相互研修を重ねている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して過ごせるように、何度か自宅に帰ったり、馴染みの場所・自宅の周りなどを車で回ったりしながら、落ち着いてホームでの生活ができるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>自立支援を大切に、本人ができることをしてもらい、戦前、戦後の生活の経験話を聞きながら、利用者理解が深まるよう職員も学んでいる。馴染みの場所や生まれた所へ度々ドライブに行っている。天気の良い日はほぼ毎日散歩に出かけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者個々のアセスメントを重ねてそれぞれが何が得意で、何ができるのかの把握に努め、出来ることをしてもらっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員相互の連携協力関係の強化に努めるとともに医師の助言を取り入れて、ミーティング・勉強会で計画の見直しや、変更の計画作成をし家族に報告・確認を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定例的な計画見直し、変化に応じて医師の助言とミーティング・勉強会で検討した内容を、家族と話し合いながら実施・確認している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけの病院への送迎、馴染みの美容室、買い物の支援などきめ細かく対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院と関係を継続してる。言語療法・運動療法が必要な方に対してのリハビリのための通院をしている。精神面の専門医の受診を定期的に行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の話し合いをしている。現実には重度になると医者と家族を交えて相談している。病院への入院を希望する家族がほとんどである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレへの誘導や食べこぼしなどへの対応については、他に気づかれない様な個々への対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除・洗濯物たたみ・食事の片づけなどの役割を担ってもらい、その他の時間は趣味・散歩や買い物など自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事材の皮をむく人・刻む人と食事の準備からかかわってもらい、往年の力を発揮してもらっている。食事時間は、TVを消し会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を特定せず、本人の希望をかなえてる。1日2回も入浴する人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じて清掃・洗濯物のたたみ・食事の準備と後片付け等の仕事の手伝や趣味、散歩に出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は晴れている日は毎日実施し、ドライブ・買い物回数が多。外食・旅行など毎月行事予定に組み込んでいる。馴染みの方が夕食後に会いに来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域的に普段から鍵をかけない家が多く、当ホームも日中はもちろん鍵はかけない、夜間でも鍵をかけないこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急講習を受け緊急対応ができるよう訓練をしている。避難訓練も消防署の協力を得て訓練をしている。区会の協力を得て会館や集会所を避難場所として提供してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定例的なバイタルチェックで食事量と栄養のバランスや水分量を把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を鉢に入れて飾り、外でおやつを食べたり、散歩帰りに一休みできるベンチを置いてある。居間は広い窓があり、遠くの山や近くの花や草を見て季節を感じることができる。廊下には長椅子が置かれ、気に合った同士が語り合うこともできるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真・仏壇が置かれて、それぞれの居心地よい部屋づくりができています。		

 は、重点項目。